

事業区分 子どもゆめ基金20周年記念事業
事業名 阿蘇の草原キッズになろう！ ①秋編

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
- [共催] 阿蘇草原再生協議会 公益財団法人阿蘇グリーンストック
- [後援] 阿蘇市教育委員会 高森町教育委員会
- [期日] 令和3年10月15日(金)～10月16日(土) 1泊2日
- [活動場所] 阿蘇青少年交流の家 町古閑牧野(箱石峠側) 小堀牧野
- [参加者] 阿蘇市立一の宮小学校4年生 84名 引率4名
- [講師] 市原 啓吉 氏(町古閑牧野組合長)
 藤原 健太郎 氏(町古閑牧野組合員)
 田島 今朝信 氏(小堀牧野組合長)
- [担当職員] 5名
- [ボランティア] 阿蘇グリーンストック野焼きボランティア4名

1 趣 旨

阿蘇郡市内の子供たちに、阿蘇の草原環境の現状を学ばせると共に、草原維持活動(野焼き)を実際に体験させることで、草原環境保全への意識を向上させる。
 また、野焼きに携わる人々との出会いを通して、いろいろな生き方・考え方に気づかせ、地域を愛し、地域をよりよくしようとする心を育成する。

2 目 標

- (1) 参加者の8割が、互いの協力の中で、体験活動に「満足」を感じる。
- (2) 参加者の8割が、野焼きの果たす役割や、阿蘇の人々のライフスタイルへの関心をもつ。
- (3) 阿蘇の草原の現状を知り、参加者の8割が草原環境を守っていくための自分の考えをもつ。

3 事業展開

研修プログラム

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00			
10月15日(金)			バス移動	開会式	草原紙芝居①	草原ビンゴ	バス移動	昼食	草泊まりについての講話	草泊まり作り	オリエンテーション	部屋移動・休憩	夕食	エサづくり	入浴	草原紙芝居②	振り返り	就寝準備	就寝

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
10月16日(土)	起床	洗面	朝食	部屋の片づけ	退所点検	あか牛エサやり	あか牛メッセージ	あか牛についての講話	閉会式	退所						



【町古閑牧野の絶景】



【草を使って何が出来る？】



【草原の植物を探せ】



【わらを運ぶぞ】



【入口作りは難しい】



【味噌団子は粘土みたい】



【味噌団子おいしい？】



【牛の背中モフモフ】



【あか牛についての講話】

4 成果と課題

(1) 成果

- 参加者の86%が満足(やや満足まで含めると97%)というアンケートからの結果で、事業の目的を達成することができた。
- 「野焼きについてもっと知りたくなった」「人と草原とあか牛の昔からの助け合いが分かった」「草原や牛などはたくさんの人に大切に守られていると初めて知った」などの感想から、野焼きの果たす役割や阿蘇の人々のライフスタイルへの関心を高めることができた。
- 「草原が減ってきているから、残さないといけないうことに気づいた」「これからも草原をつなげていき、日本全体が詳しく知ってほしいと思った」「阿蘇の自然の大切さに気付かされた」等の感想が複数見られ、草原環境を守っていくための自分の考えをもちつつある様子が見えられた。
- 一の宮小学校の先生と連携し、総合的な学習を意識した上で、プログラムを設定したことで、既習内容との関連付けができ、より深い理解へとつなげることができた。

(2) 課題

- 全体的にスケジュールがタイトで、4年生の行動スピードでは困難である。プログラムを精選したり、移動を少なくしたり、2日目を昼過ぎまで実施したりするなどの工夫が必要。どのプログラムも魅力的であり、土曜授業を絡めた日程を変更することは難しいという先生方の意見もある。
- 草泊まり作り体験は、大勢の児童が一斉にできることが少なく、間を持って余す様子も見られた。草泊まり作り体験のプログラムとあか牛のエサづくりを同時に行い、ローテーションする等の工夫が必要である。
- 牛を怖がる児童が多いので、エサやりの際には先生方の言葉かけや促しが必要である。
- 先生が手続きや児童対応に追われ、プログラムに関われなかった部分があったため、施設利用に係る手続きや、その間の児童対応、緊急時対応など、改めて職員と先生方の役割分担を見直すとともに十分な打ち合わせが必要である。